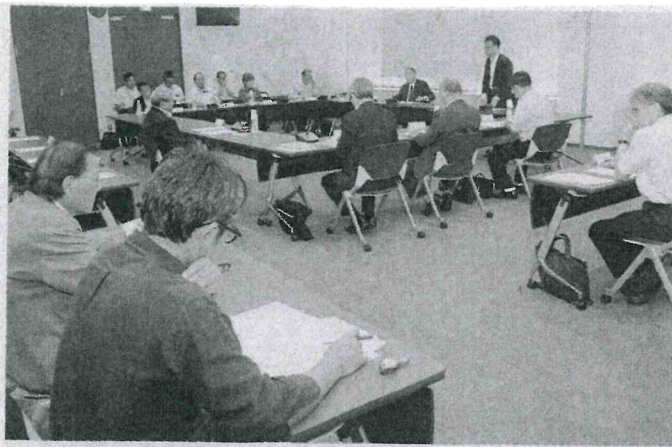


PRガイドブックを制作 8/26 構想推進協 今年度の事業など確認



今年度事業計画を確認した東九州バスク化構想推進協議会の総会（延岡市役所）

東九州バスク化構想推進協議会（会長・読谷山洋司延岡市長）の総会がこのほど、延岡市役所で開かれた。協議会を構成する延岡市と大分県佐伯市の行政、商工会議所、観光協会、飲食業組合など関係団体の代表者らが出席し、今年度の事業計画などを確認した。

今年度事業計画については、継続事業の観光旅行商品造成事業が4月予算執行の必要上、事前に書面決議を実施。この日は、同事業や両市連携のPR事業など継続3事業と、新規の取り組みとして、同構想のPRガイドブックを制作（5千部予定）することが報告された。

意見交換では、「まつりのべおかやゴールデンゲームスなど、大きなイベントとタイアップしてはどうか」「こちんまりとやっても効果はどうか。スケールを大きく効果のある投資をすべき」「延岡と佐伯の料理人の交流の場づくりをしてはどうか」などの意見が上がった。

東九州バスク化構想は、フランスとスペインの国境にまたがる美食の地・バスク地方をモチーフとして、県境を挟んで隣接する両市が「地産地活」の理念の下、県境を越えた食のまちづくりを連携し、地域の活性化につなげていく取り組み。同協議会は、構想を推進していくため、両市にそれぞれ立ち上げられた各推進協議会との広域的連携を強化し、自立を旨とした食のまちづくりへの実効性を高めようと、2016年9月26日に設置された。

読谷山市長は「食を切り口にしたり取り組みで両市が連携し、分の厚い多様な取り組みが実現し、地域活性化につながることを念願したい」、田中利明佐伯市長は「構想を単なるイメージや言葉だけでなく、もっと具体的な成功事例を作り、重ねながら共に頑張ろう」と話していた。

構成員は次の通り。
会長―読谷山洋司延岡市長▽副会長―田中利明佐伯市長、清本英男延岡商工会議所会頭、谷川憲一佐伯商工会議所会頭▽監事―谷平興二延岡観光協会代表理事、橋本正恵佐伯市観光協会会長▽委員―高田重幸宮崎県飲食業生活衛生同業組合延岡支部長、戸高秀俊佐伯飲食業連合組合長、吉玉典生おしい革命実行委員長、浦辺裕二天分県南部振興局長

郷土の歌人 牧水の生誕を祝う

延岡顕彰会 銅像に献酒ししのぶ

延岡総合文化センター

郷土の歌人・若山牧水の第34回生誕祭が、誕生日に当たる24日、延岡市総合文化センターであった。

若山牧水は1885(明治18)年8月24日、東郷村坪谷に生まれた。

1986(昭和61)年に延岡東ロータリークラブが、牧水生誕100周年を記念して銅像を建立。

以来、毎年この日に、若山牧水延岡顕彰会と同RCCが共催して生誕祭を行っている。

オープンングでは、ゆりかごWEC児童クラブと第二ゆりかごWEC学院の児童・園児たちが、牧水の足跡を紹介したほ

か、2首の歌を朗詠。大きな拍手を浴びた。

飯千会長は「この子たちのように、小さい頃から牧水の歌に親しんで育つ子どもたちが頼もしく思えます」と触れ、牧水が隣のおじさんに「長生きしてお酒を飲みましょう」と詠んだ、歌集に載っていないという歌を紹介した。

読谷山洋司市長の祝辞に続き、市文化連盟の発足70周年記念行事として、延岡少年少女合唱団

と延岡混声合唱団が歌声を披露。少年少女合唱団は牧水が作詞した童謡「タリヤ」と「めだかこっこ」を斉唱し、混声合唱団は「白鳥の歌(斉唱)」「ふるさとの尾鈴の山」「白玉の歯にしみとおる」「白鳥の歌(出席者全員

で合唱)の4首を歌い上げた。

閉会のあいさつに立った延岡東RCCの新田会長はクラブの顕彰活動を振り返ったほか、今後も顕彰活動を継続し、延岡への郷土愛や風土への思いを、後世へしっかり受け継いでいくことを願っています」と述べた。

あいにくの雨のため、恒例の献酒は正面玄関で行われた。顕彰会と同RCC会員らが特設の大杯にひしゃくを使って、牧水

像の後ろ姿に献酒。参加した人たちも牧水の愛した酒を次々とささげてのんだ。



約60人が参加した若山牧水生誕祭(24日、延岡総合文化センター)

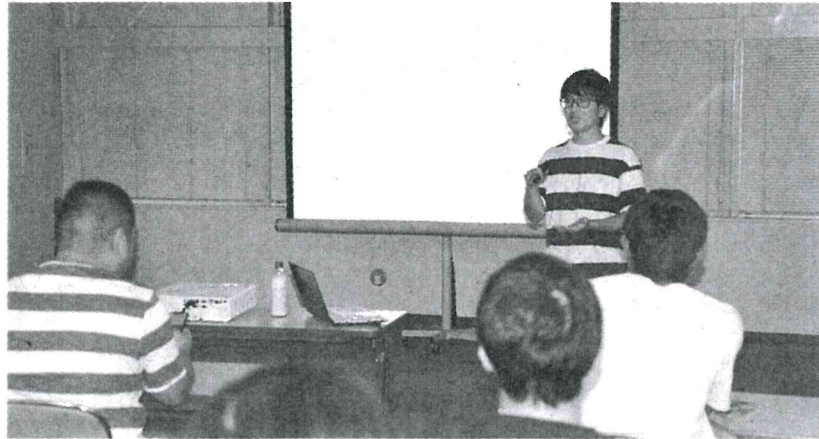


牧水像に献酒する出席者

みやざきサクラマス

来年度 水煮缶 2000個生産へ

8/26 大学発ベンチャー企業 上野さんが事業報告会 宮崎



みやざきサクラマスの事業報告する上野賢さん
(24日、宮崎市の宮日会館)

五ヶ瀬町で育った養殖ヤマメを延岡の海で巨大化させる「みやざきサクラマス」の商業化を目指す宮崎大学大学院2年の上野賢さん(23)は24日、宮崎市で事業報告会を開いた。昨年末に実施した海面養殖と今後のイクラ採取の計画を説明。来年度は水煮の缶詰を限定生産する予定で「地域の水産業を活性化していきたい」と意気込みを語った。

報告会はインターネット上で支援金を募るクラウドファンディングを通じて寄付した支援者を対象に実施した。クラウドファンディングでは126人から98万6500円が集まり、1000人を超えたことは驚いている。みなさんのおかげで養殖が続けられている」と感謝した。

すしネタでサーモン人気が高まっている中、「サクラマスは唯一の国産サーモン」と事業の有望性を示し、6月に実施した試食会では「クセがない」と好評だったことを話した。

鮮魚や加工用として出荷したほか、一部は再び五ヶ瀬町の養殖場に戻した。これらは雌からイクラを採取し、雄は切り身にして薫製に加工するほか、ずば抜けて大きく育った優良系統は次世代の育成に使う。これが今後10年の糧になる」と先を見据えた。

8月21、23日は東京都の展示会で試験的に作った水煮缶をPRし、女性バイヤーの関心を引いたという。10月から休学し、上野さんが立ち上げた大学発ベンチャー企業「Smolt(スモルト)」に専念。来年度は2千個限定で生産する計画だ。報告後は参加者と意見交換。串間市で同じ水産業として働く関澤大輝さん(23)は「細かいところまでリスク管理している。同い年で刺激を受けたし、参考にもなった。盛り上げていってほしい」と期待を寄せた。

みやざきサクラマスは、五ヶ瀬町の清流で養殖されたヤマメを延岡湾で海面養殖して巨大化させた魚。宮崎大学の内田勝久教授が2013年から研究を開始し、安定的な養殖技術を確認してきた。